

自己評価および外部評価結果

ユニット あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合っ作成した事業所理念を事業所内に掲示すると共に定期的に振り返りの機会を設け理念に基づいたケアが提供できるよう取り組んでいる。	職員全体で話し合い作成された理念は、正面玄関や各ユニットの玄関に掲示され、職員会議や研修時等、定期的に振り返り、必要時には日々の中でも話し合い、管理者と職員は共有して利用者本位の優しいケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや集落センターでの「はつらつ教室」に積極的に参加したり、老人クラブの方と一緒に草刈を行ったり・地域との交流を大切にしている。	地域の行事やお茶の間サロンへの参加他、散歩や買い物、近くの中学校の行事に向向いて地域の方々と気軽に挨拶を交わしたりしている。又、地域住民の一員として地域防災会への参加や、草刈り作業への参加等、地域の人々との関わりを大切にしている。畑作業を通じて農作物のおすそ分けも多く交流を深めている。	利用者の日常生活を第一にしつつ、事業所の実践経験を活かし地域住民からの相談にのったり、人材育成の貢献として研修生の受け入れや、中学生の職場体験などの取り組みも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や実習生等の受け入れ、運営推進会議の実施などを通じて、認知症の人の理解や支援について発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催。施設の現状や取組状況又その都度各ユニット長から入居者の様子等を説明し委員からの意見、要望をいただき施設運営に活かしている	利用者、家族代表、町内会、民生委員、包括支援センター職員の参加を得て2カ月毎に開催し意見を伺っている。会議では2カ月間の状況報告後、前回メンバーから伺った意見についての対処法や成果について報告も行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へは議事録などで状況を報告したりその都度電話やメールで連携を図っている。又運営推進会議へは包括支援センターの職員に参加していただいている。	市担当者には会議議事録などで状況報告を行い、不明なことがあればいつでも相談出来る関係にある。包括支援センターとの積極的な連携が構築されており、折に触れ相談、助言、連絡等がなされ、共通理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を通じて、身体拘束の対象となる行為を学んでいる。玄関の施錠は安全を考えた夜間8時以降のみ実施し日中は入居者が自由に出入りされている。	職員全員が研修会で学んだ身体拘束についての具体的な行為や、言葉による拘束について理解を深め、人権を守ることがケアの基本であるという認識のもと、抑圧感のない自由な暮らしの支援が行われている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会福祉協議会としても職員研修計画書の中に義務づけている。その為研修後は施設内職員研修を実施。虐待について学び入居者が穏やかな生活が続けられるよう心がけている	事業所内研修を行い、高齢者虐待法に関する理解の浸透や、法令順守に向けた取り組みに力を入れ、日々のケアについての振り返りも行っている。管理者は職員のストレスが蓄積されないよう相談事に応じることの出来る関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している入居者の事例を通じ学び、現場に立ち会い他の入居者への必要性についても検討、又入所時関係者へ説明等をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は利用者や家族に対し分かりやすい説明を行い疑問点を解消し納得していただけるよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時やサービス担当者会議等を活用し一緒に話す時間を設け、入居者、家族の意見、要望を引き出すよう工夫している。問題と感ずる事項についてはユニット会議で共有し改善に繋げている	散歩や入浴時など利用者と1対1の時や利用者同志の何気ない会話の中から意見や要望等を引き出せるように心がけている。家族には手紙や面会時、ケアプランの更新時に何でも話してもらえる雰囲気づくりに努めている。意見や要望は職員会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開催し、自由に意見等を出し合い所長、支所長へ随時、議事録で報告している	毎月ユニット会議を開催し、管理者は職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、自由闊達な意見や要望が発言されるようになっていく。職員からの提案やアイデア等も取り上げられ、良好な運営体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に助成を行いキャリアアップを推進している。又昨年より人事考課研修を定期的に行い本年度から実施していく		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内研修会を実施している。他の島内で行われている各種研修会の参加を促している。又講師の派遣により施設内で研修会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回島内5ヶ所のグループホームが会議を開催。情報の交換、運営状況について話し合う機会を設けている。又他の運営推進会議にも定期的に参加しサービスの質向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に、日常生活に関する調査票に基づき本人の状態を把握、不安や要望を感じ取り、信頼関係を築けるよう努めている。又、入居前に施設見学をしていただき、不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の不安や要望を受け止め問題解決をする努力をするとともに、要望を述べやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当ケアマネージャーとの話し合いで利用目的を見極め、必要時には他のサービス利用も含め対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各自の生活能力に合わせ、お互いが支えあって共に生活できる場となるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅要求が聞かれる時には一時帰宅等の協力や、通院介助の協力をお願いしており、気軽に面会に来やすい雰囲気作りに努め、家族との昼食会を開き、ご家族との関係が疎遠にならないよう努力している。	今までの暮らしが継続できるよう日々の暮らしや気付きを毎月家族に報告し情報共有に努め、家族との関係が途切れないようにしている。外泊、外出、行事への参加など、利用者の願い実現のため家族の協力を得て支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅やお墓参りに行かれたりレクで地元に出かけたり、家族・親族・地域の方が気軽に来訪し、ゆっくりと過ごせるように配慮し、関係が途切れないよう努めている。	地域との関係が途切れないよう利用者の気持ちに寄り添いながら、墓参りや自宅に行ったり田畑を見に行くなど可能な限り支援している。どなたでも立ち寄れるホームとしての雰囲気づくりに努め、交流が継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しとなり、日課やレクへの参加を通して、入居者同士がお互いに支えあい、より良い関係づくりができるよう努め、食事やレクでの外出時の席や配車を考慮し、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の利用者が安心して生活出来るよう他の施設、病院のケースワーカー、在宅ケアマネジャーを紹介したり市の各種サービスの手続きを代行し相談、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションから意向や希望を拾い出し、個々の立場になり把握・検討することに努めている。	センター方式を用いて各利用事業者からの情報も得て、生活を支えるためのアセスメントを行い、日々の関わりの中でも声をかけ把握に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族や職員の会話の中から情報を得るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時の情報や事前訪問時の情報把握に努め、入居後も本人からの話や家族との面会や電話連絡で情報収集をし、馴染みの生活が継続できるよう努めている。	本人や家族、親族からこれまでの暮らし方や生活歴を聞くと共に、本人との会話の中や、繰り返し話す言葉の中でも本人の理解に繋げ、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・バイタル測定表・申し送りノート・私の基本情報シートを活用し、職員間で現状把握や情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族に同席してもらい、サービス担当者会議を開催している。遠方・欠席の家族には照会状を送付し介護計画に反映できるよう努めている。モニタリングは定期的に行っている。	日頃の関わりの中でも本人、家族の要望について話し合いを持ち、職員間で意見交換や本人、家族も参加するモニタリング、カンファレンスを基に検討し介護計画に反映させている。また、必要時は期間によらず随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録や申し送りノートで情報を共有し、カンファレンスにて介護計画に盛り込んで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望、状況により墓参りや一時帰宅、行きつけの床屋などその時々ニーズに柔軟に対応や支援が行えるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、地域への祭り、はつらつ教室などに積極的に参加し地域住民と交流できる機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、本人及び家族等の希望に沿えるように対応している。介護者が遠方いらっしゃる方や協力医療機関への受診は基本的に事業所で対応している。	基本的には家族同行の受診となっているが、都合のつかない時は職員が代行している。受診結果については家族にも報告を行っている。近隣に協力病院もあり、急な場合は夜間の訪問診療も受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置はないが、受診時等に情報や気づきを伝達するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、事業所の職員が病院のカンファレンスに参加させていただいたり、医療相談室のケースワーカーを通じ情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入所時、事業所としての方針を明文化し本人、家族へ説明し納得、理解を得ている	看取りはしない方針となっている。状態低下時は病院、施設への移行を支援している。今後は本人、家族の意向を踏まえ、協力病院との連携を図りながらチームで支援していくための体制整備と学習の必要性について感じている。	終末期支援について、今後の対応方針、医療、訪問看護との体制整備等について職員全体で勉強会を設け、諸々の条件の整備を確立し利用者、家族の安心と要望に繋がることを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が定期的に応急手当の勉強会に参加し、体験、体得、習得し、実際の場面で活かせるように努めている。誰でも解りやすい場所にマニュアルを設置し直ぐに対応できる体制がとられている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練や食料の備蓄を実施。問題点や要する時間、避難場所等を職員間で共有した。又地域の自主防災会への参加、佐渡市災害時要援護者台帳への登録を行い対策を進めている	利用者の参加も得て、全職員参加のもと2カ月に1回の訓練を実施している。また、年1回消防署の協力を得て消火器の取り扱い方法や、避難経路の確認と共に避難場所までの移動訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、一人ひとりに合わせた声掛けや対応を行っている。	その人らしい尊厳ある姿を大切にし、誇りやプライバシーを損なうことのないようさりげない言葉かけや対応に配慮している。また、全職員が誇りやプライバシーについて折に触れ確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを維持するために、1日の流れは大まかに決めているが、一人ひとりのペースや希望に合わせて柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの状態に合わせた声かけや支援をしており、ご家族と一緒に理・美容室に出かけたり、希望者には地域の美容師の方に来てもらい髪の手入れをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や好みに応じた食事を心がけ、野菜の皮むき・調理・盛り付け・後片付け等、個々にできることを手伝ってくれている。メニューをホワイトボードに記載し、食事が楽しみなものになるよう支援している。	敷地内で利用者が職員と共に収穫した野菜や家族、地域住民からの頂き物を利用し、メニューは利用者と共に考えられている。また、副菜の盛り付けや、食事後の後片付けも利用者と職員が共に行う等、利用者の力を発揮させている。食堂も落ち着いた雰囲気への配慮がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて分量や食事形態や栄養バランス、季節感に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持	起床時、就寝時、毎食後に個々の能力や状態		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後に個々の能力や状態に応じて、口腔ケアの促し見守り介助を行い、就寝前には義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて定期的なトイレ誘導や声掛けを行うことにより失敗を減らし、トイレで排泄できるよう支援を行っている。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を基本的に個々の排泄パターンの把握に努め、その人の動きを観たり時間を見計らってさりげなく誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。必要物品は他者の目に触れないよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操、水分補給、献立の工夫、便秘薬の調整などで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は15時から17時30分ころまでだが、入浴日や順番等は決めておらず、その日の希望や身体状況に合わせて対応しており、入浴にかかる時間も一人ひとりのペースや状態に合わせている。	入浴は随時利用できるよう柔軟に対応している。入浴拒否される利用者へはタイミングを見計らったり声がけにも工夫がなされている。清潔が保てるよう配慮され浴室内の事故防止に向けた見守りも徹底し、浴室内での対話も大切にしながら、安全で自由で快適な支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースや身体状況に合わせて休息することができ、室温や寝具の調整も本人に確認しながら安心して休める環境づくりを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の説明書を確認し、効能や副作用を理解するよう努め、処方内容が変更になった時等は申し送りを徹底し、状態変化の確認に努め、服薬時には複数職員でのチェックを行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた役割を持てるように支援し、散歩や畑仕事、手芸などで気分転換できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や気分転換に散歩や買い物、季節に合わせたドライブに出かけたり、地元への外出レクなどを支援し、地域の方の畑での収穫作業をさせてもらうなど協力いただいている。	食材や日用品など利用者の状況や希望に応じ、誰でもが楽しめる外出支援がなされ、地域の方の協力も得て日常的な散歩や季節ごとの外出を楽しんでいる。外泊を希望する利用者には家族の協力を得て本人の思い実現のための支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者預り金要領に基づいて金銭管理を行っているが、必要に応じてご本人と買い物等の機会を設けたり、金銭の本人所持についても希望に応じています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の一部として必要時に支援を行っており、家族と自由に連絡が取れるよう携帯電話の使用や、電話の取次ぎを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明の調節、室温や湿度の調節を行い、季節の花や年間行事に関する物を利用者と飾り付けを行うなど、季節感を取り入れながら快適な環境づくりを心掛けている。	個々の作品や季節感のある花々が随所があり、五感刺激への配慮がなされている。広々としたリビングいっぱい射し込む太陽は、心身の活力を引き出す礎となっているように窺える。足を伸ばせるスペースもあり優しい配慮がなされ、快適な環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル・椅子の他に畳コーナーがあり、施設の玄関には長椅子を置き、気の合ったもの同士でくつろいだり、会話を楽しめる空間を作り工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談の上、居室に畳を敷いたり、冷蔵庫や使い慣れた家具・寝具を持ち込んでいただいて、居心地よく過ごせるよう支援している。	使い慣れた家具や物品・写真や思い出の品々が持ち込まれ、個々の利用者の居心地のよさに配慮されている。自由でその人らしく、自宅と変わらない居心地を感じてもらうため、馴染んできた生活様式の希望も受け入れており、自立した生活が送れるように配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すり等も設置されており、トイレ入り口の戸の色を居室入口の戸の色とは対照的な色にし、居室入口には名前を表示し間違えることがないように工夫されている。		